

親の気づき 子のやる気

〇〇20



第1章・ゆとり教育世代の子どもの文化

塾という職業柄、ゆ

とり教育世代の子どもたちと日々接しているといわゆる「いじめ」もずいぶんと質が変わってきたと感じています。子どもたちは、安全で便利な生活の中で育ってきたので、とにかく面倒がいやなのです。だからでしょう

携帯③

「かいいじめも」「はぐれ」という仲間外れが主流のようです。

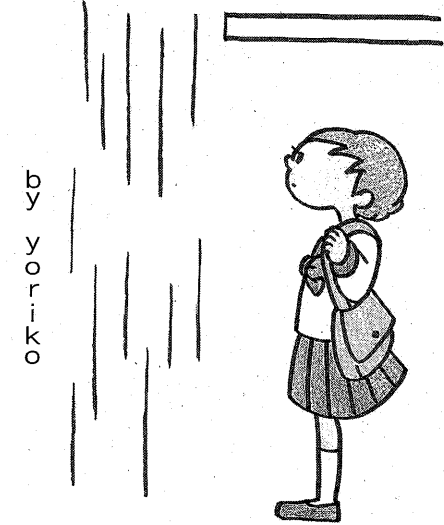
われわれ親の世代にも「村八分」と言っている仲間外れがあったと思います。小中高と楽しいことばかりではなく、相性のいい友達もいたし苦手もいました。長電話で親に怒鳴られながらも「学校をやめて東京に出ようか」「こんなことなら死んじゃいたい」などと友達と語り合ったこ

交友範囲が一気に拡大

危険はらむメールの文面

ともありました。しかし、一晩寝て、次の朝には友達が「おはよう」と家に寄ってくれたり、通学路で一緒になったりという日々だったと思います。最近の子どもたちは、携帯電話を持ってしまふと別の学校のメル友、遠く離れたメル友とつながり、家にながらも交友範囲がかなり広がります。だから、例えばある日、わが子が不登校になり部屋で過ごす時間が増えたとしても、学校に行かない、学校に行けないという点では大変難しい問題ですが、携帯メールでも「オレも」もし「バカやってなし」「つらい」と言っているのは訳が違ふとは思いますが、

メルで外とつながっているの、見た目ほど深刻な「引きこもり」ではないかもしれませんが、隣町まで広がった交友関係で「おはよう！学校に行こう」とは迎えないという言葉で表すように、うっとうしいことをとにかく避けるという点にあると考えられています。つまり、タムタム、不登校状態になり、部屋の中で過ごす時間が増え、昼夜逆転の不規則な生活が続きます。例えば、部屋の壁を見つめ携帯の画面を見ながら「死にたい」と打ったメールに「オレも」と返ってきたら…。部活で汗を流しているのとは訳が違ふとは思いますが、



by yoriko

本当の子どもの安全とご家庭の安心は、親の世代の文化とは異なる子ども文化を親が理解するところから始まるのではないのでしょうか。
(畑山篤志 学塾塾長)

教育

ニュース なぜなに

大きな原因の一つは、「政治とカネ」の問題です。鳩山由紀夫・前首相と小沢一郎・前幹事長はそれぞれ、政治資金の流れを明らかにするための報告書にうその記入があったとして、元秘書が罪



本ほかの場所に移すと言っていました。ところが米国政府に反対され、自民党政権と同様に移設すると発表しました。地元は強く反発しており、計画は進みそうにありません。

事なことを役人任せ家が決めるよなってきた税金のムダづがないか、公場で検討する業仕分け」も

携帯電話
朝岡孝政

携帯電話を障害児学習に